

新たな都市活力推進特別委員会行政視察概要

1 視察月日 令和3年11月18日（木）～11月19日（金）

2 視察先及び視察事項

(1) 九州旅客鉄道株式会社（福岡県福岡市）

観光列車「36ぷらす3」による地域観光の連携について

(2) 鹿児島県

「観光立県かごしま」の実現に向けた取組について

3 視察委員

副委員長	福地	茂
同	横山	正人
委員	斉藤	達也
同	田野井	一雄
同	山本	たかし

視察概要

1 視察先

九州旅客鉄道株式会社

2 視察月日

11月18日（木）

3 対応者（役職名）

鉄道事業本部営業部営業課担当課長（受け入れ挨拶）

鉄道事業本部営業部営業課主査（説明者）

4 視察内容

（1）観光列車「36ぷらす3」による地域観光の連携について

ア 事業内容

九州を一周し各都市を繋ぐ観光列車である。週5日の運行で曜日によってルートが異なり、約一週間で九州を一周できる。

主な利用者の約50%が九州居住者であり、広域では電車ファンや旅行好きの方から高く評価されている。ターゲットの絞り込みはしていないが、女性からの評価を念頭にツアーを構築している。

イ 地域連携

列車は途中駅で停車し、その土地の特産品や伝統芸能などを楽しむ時間を設ける。その準備のため、事前に無人駅など様々な場所を視察し、車両の停車が可能な、魅力ある地域特性などを勘案して途中停車駅を選定した。

停車駅でのおもてなしについて、大分県佐伯市などは行政で予算を組んで臨んでいるが、杵築市の杵築駅などは地元住民主体で取り組んでいる。

ウ 質疑概要

Q 途中停車対象駅ではない駅から途中停車のリクエストはないのか。

A リクエストはあるもののダイヤ調整の問題や車両を一定時間停車していただける状況であるかなどの課題がある。

Q この観光列車の乗車券はふるさと納税対象商品とすれば更なる地域観光振興に繋がるが商品として指定されているか。

A 現在はふるさと納税商品に指定はいただけていない。

(2) 委員所見

途中停車する駅では、町内の方々による心のこもった演出や工夫によるおもてなしがあり、特産品の販売やその地域の観光名所などの案内パンフレットが陳列されているなど地域振興の取組がされていた。

また、駅によっては市の職員7名程度でこの列車が停車するのを地域の住民の方々と共に待ち受け、乗客をもてなすなどの活動をしていた。

この観光列車は、JRとしての観光商品であるものの、地域ではマイクロツーリズムの観光客として歓待し、その後の観光客増加につなげようとの取組が見られた。

こうした民間電鉄会社による観光列車商品により、単一行政の観光施策だけにこだわらず、隣接都市との連携により都市の魅力を高めることができることを確認できた。



鹿児島県阿久根市の駅にて、地域の方とともに市の職員も出迎えている。



地域の方が特産品を販売し、観光スポットなどを案内している。

視察概要

1 視察先

鹿児島県

2 視察月日

11月19日（金）

3 対応者

観光文化スポーツ部観光課課長補佐（受け入れ挨拶）

観光文化スポーツ部観光課主幹兼観光企画係長（説明者）

4 視察内容

（1）「観光立県かごしま」の実現に向けた主な取組について

- ・世界自然遺産を活用した観光施策
- ・サイクルツーリズムの推進
- ・クルーズ船の増加への積極的取組

ア 課題認識

- ・世界自然遺産があるものの、自然を見ることは無料であり地域にお金が落ちにくい。
- ・観光の産業化に課題がある。
- ・宿泊者数が少ない。
- ・クルーズ船の寄港が増えているが、ANA、JALホテルなどの一流ホテルが無い。

イ 課題解決に向けた取組

- ・観光の稼ぐ力の向上を目指した取り組みの展開
- ・マーケティングによるデータ分析に基づき効果的な誘客
- ・地域資源の発掘、磨き上げ、滞在コンテンツの開発と充実
- ・観光地の受け入れ環境や景観整備
- ・周遊促進に向けた交通ネットワークの形成、充実
- ・観光地域づくりの人材育成と組織強化
- ・観光産業の人材確保、生産性やサービスの付加価値向上
- ・地域産業の連携による県内調達率の向上への取組

ウ 質疑概要

Q 観光政策における担当者の課題認識について。

A 鹿児島島のイメージから連想できるコンテンツが多数あるが絞る

ことができない。また、日帰り客が多い。一流ホテルが無い。

Q 平成30年の宿泊者886万人のうち県内の割合について。

A 約6割が県内観光客となっている。

マイクロツーリズムという観点では成り立っているが市場が大きくない。やはり、他県からの宿泊客やインバウンドを伸ばしたい。

Q 議会で議論している今後の観光政策について。

A 約4万5000平米の活用可能な土地があり、MICE施設の建設を検討している。しかし、国際会議場などを設置しても一流ホテルが無いなどの課題もあり、活発な議論がされている。

(2) 委員所見

鹿児島県は世界遺産や西郷隆盛などの歴史的な有名人物など、イメージ戦略は幅広いが、観光コンテンツの多さから、逆にメインとなるコンテンツを絞ることができない悩みを抱えている。

本市は、世界遺産が無いことからIRも含めた様々な観光施策を検討しているが、東京隣接という立地、開港の歴史、高級ホテルの存在など大都市である強みがあるということを再認識できた。

鹿児島県は、本市からすればうらやむほどのコンテンツを持ちながら、そのコンテンツが生かし切れていないという状況であることが分かった。



鹿児島県による説明及び意見交換